

平成20年 7月27日 日

開場 12:30 開演 13:00

東京国立博物館 平成館 大講堂

(東京都台東区上野公園13-9)

NPO法人文化財夢工房ご入会案内

●入会金・会費

一般会員入会金 1,000円/年会費 3,000円(個人)、10,000円(団体)

賛助会員入会金 1,000円/年会費 1口10,000円(個人)、1口50,000円(団体)

●会員特典

- ・NPO法人文化財夢工房ホームページにある「文化財マップ」に文化財の写真を投稿して、全国の会員と交流できます。
- ・メールアドレスの登録がある方には、関係シンポジウムなどの各種案内を非会員よりも1か月早く配信します。
- ・各地で行われる文化財の啓発活動にボランティアスタッフとして参加いただけます。
- ・NPO法人として制作したパンフレット類の配布、情報の提供をいたします。
- ・団体で入会された会員には、ホームページの開設と運営をお手伝いします。

●ご入会手続き

ご入会前に必ず本会の定款(文化財夢工房のホームページ参照)をお読みいただき、内容をご確認ください。

【ホームページから】

- ①<http://www.npo-bunkazai.org/>上の入会フォームに必要事項をご記入いただき、送信してください。
- ②送信内容の確認および会費振込先口座番号をメールにてお知らせいたします。
- ③メール内容をご確認いただき、指定口座へご入金ください。
- ④入金確認後、会員証をお送りいたします(この処理をもってご入会となります)。

【FAXおよび封書など書面から】

- ①入会申込書(受付にて配布中)に必要事項をご記入後、事務局宛に郵送またはFAXをお送りください。
- ②下記いずれかの口座へご入金ください。
- ③入金確認後、会員証をお送りいたします(この処理をもってご入会となります)。

●会費振込先

郵便振込——口座番号:00180-6-428701 口座名義:特定非営利活動法人文化財夢工房

銀行振込——銀行名:三井住友銀行 支店名:飯田橋支店(支店コード888) 口座種類:普通 口座番号:6882648

口座名義:特定非営利活動法人文化財夢工房

トクテイヒエイリカツドウホウジンブンカザイユメコウボウ

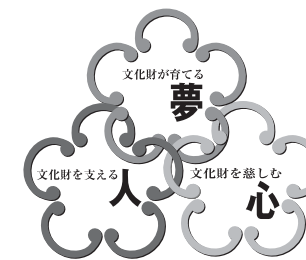
NPO法人文化財夢工房役員

理事長 三輪 嘉六
副理事長 中村 俊郎
副理事長 後藤 治
監事 伊部 和徳
泉 清吉

問い合わせ先

NPO法人 文化財夢工房事務局
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F
TEL:03-3238-1689 FAX:03-3238-1837
E-mail:jimukyoku@npo-bunkazai.org
URL:www.npo-bunkazai.org

NPO法人 文化財夢工房シンポジウム



誇るべき日本の伝統がやどる文化財は、全国のいたるところで今も生きています。文化財は、ふるさとを大切に人々や子どもたちの夢を育みます。文化財は、先人の知恵と絆によって現代に受け継がれ、今も人々の手によって支えられています。文化財を慈しみ、大切にすることは、現代社会にうらおいとやすらぎを与えてくれます。

NPO法人文化財夢工房は、各々が有する知識、経験、情報等を持ち寄り、夢と人と心をつないで、みんなで文化財を守り、伝えることによって、穏やかで温もりのある社会の構築に貢献したいと考えています。

プログラム

- | | | |
|--------------|------|--|
| ○13:00~13:10 | 開会挨拶 | 三輪 嘉六 NPO法人文化財夢工房 |
| ○13:10~13:50 | 基調講演 | 「文化財の保護とサポーターの役割」
亀井 伸雄 前文化庁文化財鑑査官 |
| ○13:50~14:20 | 講演 | 「文化財の保存と活用 イタリアの事例を主に」
内田 俊秀 京都造形芸術大学 |
| ○14:20~14:40 | <休憩> | |
| ○14:40~15:10 | 講演 | 「御神宝を護る心」
味酒 安則 太宰府天満宮 |
| ○15:10~15:40 | 講演 | 「宇都宮市文化財ボランティアの活動」
宇都宮市文化財ボランティア協議会(発表者:会長・上野とも子) |
| ○15:40~16:10 | 講演 | 「自然災害からの文化財の救済支援」
奥村 弘 神戸大学 |
| ○16:10~16:30 | まとめ | 三輪 嘉六 NPO法人文化財夢工房 |

開会挨拶／まとめ

三輪 嘉六 九州国立博物館長／NPO法人文化財夢工房理事長

文化財を正しく保存し、正しく活用していく。新しい文化の創造は、こうしたなかから生まれてくると考えている。同時に、文化財が市民と共に在り、寄与することによって、心豊かな市民社会を築くことが出来ると考えている。こうした目標に向けて、NPO活動に従事していきたい。

	みわ かるく
	日本大学史学科卒業。奈良国立文化財研究所研究員、文化庁主任文化財調査官、東京国立文化財研究所修復技術部長、文化庁美術工芸課長、同庁文化財鑑査官、日本大学教授を経て、1998年より九州国立博物館設立準備室室長、2005年より現職。文化審議会文化財分科会専門委員、世界遺産特別委員会委員をはじめ、各地で文化財の保存・活用についての各種委員を務める。99年から文化財保存修復学会会長に就任。専門は考古学、博物館学、文化財学。著書に『日本馬具大観Ⅰ～Ⅳ巻』（編著、吉川弘文館）、「家形はにわ」（『日本の美術』至文堂）、「美術工芸品をまもる修理と保存科学」（『文化財を探る科学の眼5』国土社）、「Horses in Ancient Times」（『Horses and Humanity in Japan』The Japan Association for International Horse Racing）、「文化遺産危機管理的基本課題」（『1999台湾集々大地震－古蹟文物震災修復技術諮詢服務報告書－』台湾国立文化資産保存研究中心）など多数。

基調講演「文化財の保護とサポーターの役割」

亀井 伸雄 （財）文化財建造物保存技術協会理事（前文化財鑑査官）

近年、私たちの身の回りにある文化財に注目しこれを保存活用しながら新たな地域づくりを行う動きが高まっている。とりわけ、文化財登録制度の普及にともなってその傾向は益々強くなっている。こうした現状からサポーター制度のあり方や夢工房への期待等について考える。

	かめい のぶお
	1973年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻課程修士課程修了。73年文部省（文化庁）入省、文化財調査官、建造物課長、文化財鑑査官等を経て、2008年7月より現職。専門は近世都市史、文化財保護。現在は、中近世城館遺跡に興味をもつ。著書に、『近代都市のグランドデザイン』日本の美術471（至文堂、2005）、「伝統的建造物群保護制度について」『日本の史跡』所収（名著出版、2004）ほか。

講演「文化財の保存と活用 イタリアの事例を主に」

内田 俊秀 京都造形芸術大学芸術学部教授

文化財を災害から守る取り組みは、国内で大地震や水害が目につき始めた最近では、重要性が増しています。日本での取り組みは95年の阪神・淡路大震災以降ですが、全国的に組織も増えて、広がりを見せてつあります。世界各国の現状を見ますと、非常に進んでいる国はイタリアです。あまり知られていませんが、地震国であり、大きな水害も報告されています。また美術品も多く、災害対策が進んだことは当然といえます。いま、日本がイタリアから学ぶべき点は、多いと感じております。

	うちだ としひで
	1971年明治大学文学部史学地理学科考古学専攻卒業、76年「文化財保存修復国際センター」（在ローマ、ICCROM）科学理論課程修了、78年国立ローマ中央修復研究所にて研修（日伊政府交換留学生として）。79年（財）元興寺文化財研究所・保存科学研究室研究員（平成2年7月迄）、90年京都芸術短期大学助教授を経て、現在にいたる。専門は文化財保存、特に青銅製品。現在は文化財防災に興味をもつ。著書に、『私たちの文化財を救え』（クバプロ、2007、共著）、「銅産業」、『日本産業技術史事典』（思文閣出版、2007、共著）他がある。

講演「御神宝を護る心」

味酒 安則 太宰府天満宮祓宜（神官）・総務部長

日本文化のかけがえのない遺産、その保存と伝承に神社が果たした役割も計り知れない。わが国の有史以来、連綿と続く祠官たちが、生命を賭して守護してきた社殿をはじめ建造物、神宝や什宝の有形文化財、神事や祭事の無形文化財、社を形成する樹木などの天然記念物等が、神社の歴史とともに今に継承され、日本文化として現代に応答していることは確かである。

そして、これらの形を通して、正しい日本の心を伝えるとともに、さらに後世へ継承させていくことは、この時代を生きる私たちの責務であると考える。

	みさけ やすのり
	1953年福岡生まれ。78年國學院大學文学部神道学科卒業、太宰府天満宮奉職。太宰府町（市）文化財専門委員、福岡女子短期大学講師（民俗学）、筑紫女学園大学講師（博物館学）、西日本新聞社・九州国立博物館有識者会議委員、福岡女子短期大学講師（博物館学）を経て、現在にいたる。太宰府天満宮宝物殿（博物館）主管学芸員、福岡女子短期大学客員教授（博物館学）、福岡県立美術館協議会委員、九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会副委員長。専門は天神信仰史。天神美術（絵巻・画像）に興味をもつ。國華清和会・儀礼文化学会に所属。著書に、『天満天神』（共著、筑摩書房、1988）、『国史大辞典』（第9巻、共著、吉川弘文館、1988）、『太宰府天満宮の祭－その成立と変遷－』（儀礼文化学会、1990）、『日本文化のなかの水』（日本水環境学会、1996）、『天神さまと二十五人』（共著、太宰府天満宮文化研究所、2002）、『新管家御伝』（共著、太宰府天満宮文化研究所、2002）がある。

講演「宇都宮市文化財ボランティアの活動」

宇都宮市文化財ボランティア協議会（発表者：会長・上野とも子）

宇都宮市文化財ボランティア協議会は、今年度発足13年目を迎えました。130名を超える会員が、日々自己研鑽に努めながら、文化財のすばらしさや、保護していく大切さを伝えていく活動を行っています。今回、協議会の取り組みが評価され、活動報告の場を与えていただいたことは、会員の大きな励みになるとともに、今までの取り組みについて振り返り、今後の協議会の活動をより発展させていくためのよい機会となると思われます。

	うつのみやしぶんかざいぼらんていあきょうぎかい
	発足：平成8（1996）年4月 会員数：133名（平成20年4月現在） 会の組織：会長1名、副会長2名、会計1名、庶務1名、監事2名、専門部（総務部・事業部・研修部・広報部・城址公園案内部） 主な活動：宇都宮城址公園での解説案内、市主催文化めぐりでの解説協力、市内外各種団体等からの依頼をうけての文化財案内解説、各種イベントでの文化財解説協力、市民講座等での歴史・文化財講話、研修会、勉強会の開催、広報紙の発行（年2回）、文化財ボランティア養成講座の企画・運営。 受賞歴：平成18年度県優良団体表彰。

講演「自然災害からの文化財の救済支援」

奥村 弘 神戸大学地域連携推進室室長

コミュニティの変容と解体が急速に進む中で、私たちの世代が、次世代へ文化を引き継ぐためには、地域の文化財、歴史遺産を保全活用していくことが必須となっています。私たちが今、そのために何を行い、どのような展望を指し示すことができるのか、このシンポジウムでは、このことを議論できればと考えております。

	おくむら ひろし
	1983年神戸大学文学部卒業、85年同大学大学院文学研究科修士課程（史学専攻）修了、86年同大学大学院文化学研究科博士課程（社会文化専攻）退学。86年京都大学人文科学研究所助手（日本社会）、91年神戸大学文学部助教授、95年同大学大学院文化学研究科博士課程担当、2005年同大学地域連携推進室副室長、06年同大学人文学研究科教授を経て、07年より現職。歴史資料ネットワーク代表委員、姫路市香寺町史編纂委員、三田市編纂専門委員、伊丹市修史等専門委員。著書に、「震災資料の調査・保存・活用－災害についての歴史文化の基礎をどうつくるのか－」、「阪神大震災研究5 大震災を語り継ぐ」（神戸大学震災研究会編神戸新聞総合出版センター、pp203-224、2002）、「阪神・淡路大震災後の歴史資料の保全と歴史資料ネットワーク」（兵庫県政資料館『兵庫のしおり』第5号、pp62-87、2003）、「地域社会の成立と展開」（歴史学研究会日本史研究会編『日本史講座』第7巻、近世の解体、東京大学出版会、pp65-97、2005）がある。